

祝 辞

本日、ここに財団法人リバーフロント整備センターの設立披露パーティが開催されるに当たり、お祝い申し上げます。

本センターは、地方公共団体、民間各界及び建設省の緊密な連携の下に設立準備が進められ、本日めでたく設立の運びとなりましたことは、誠に喜びに堪えないところであります。

近年、水辺環境が著しく変化する中で、水と緑の貴重なオープンスペースとしての水辺空間の価値が再認識され、特に、「まちづくり」と一体的に水辺空間の整備を進めていこうという各方面からの要請が強くなっ

(さる10月8日の設立披露パーティの際、いただいた祝辞を掲載させていただきました。)

東京都から

先ほど、梶野理事長のご挨拶にもございましたように、先般、「財団法人リバーフロント整備センター」が設立されました。

準備会の会長として、また設立発起人代表を務めさせて頂いた者として、大変うれしく存じ、感謝の言葉と共に、一言、お祝いの言葉を申し上げます。

さて、いま全国的に水や緑を見直し、これを生活の中に積極的に活かしていこうとする動きが、活発になっております。

とりわけ、水辺は、都市に残された貴重なオープンスペースとして、その価値が再認識され、街づくりと一体となった水辺空間の整備が、今日、重要な課題となっておりまして。そのために、共通の課題を抱える全国の地方自治体が結束し、国や民間の英和と力をもお借りして、望ましい水辺空間のあり方についての調査研究や、先進的な整備手法等を開発する組織の必要性を認識し、昨年来その設立に向け、準備を重ねてきたのでございます。

幸い、国のご協力、さらに民間企業や団体等の力強いご参加をいただきまして、「財団法人リバーフロント整備センター」が設立され、私どもの喜び、この上ありません。

東京都におきましても、いま、二十一世紀に向けた「マイタウン東京」づくりに全力を注いでおりますが、

てきております。

このような要請にこたえ、地域と調和した安全で潤いのある水辺空間の形成を推進することは、誠に時宜にかなったものであり、極めて意義深いことであります。

今後、本センターの技術開発、調査研究の体制が確立され、その成果が幅広く活用されることを願ってやみません。建設省としましても最大限の支援をする所存でありますので、御出席の皆様方におかれましても、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、設立に携わられた方々の御労苦に対し心から敬意を表しまして、お祝いの言葉といたします。

昭和六十二年十月八日

建設大臣 天野光晴

その中で、河川の整備は災害に強く、快適でうるおいのある街づくりに不可欠な事業として鋭意取り組んでおります。

具体的には、安全性とうるわしい景観の両立を図るスーパー堤防づくりを進めているほか、清流の復活にも力を注いでおります。

さらに、江戸東京の産業を支え、ゆたかな文化を生み出して来た隅田川を、パリのセヌ川や、ロンドンのテムズ川と同様、名実ともに、東京のイメージを代表する川となるように、「隅田川未来像委員会」を設置し、その将来のあり方と推進方策等の検討を開始したところでございます。

また東京には、多摩川や多数の中小河川が街を流れております。川のある風景は、その街に何ものにも替え難い風情を与えるものであります。こうした美しい水辺を大切に、私たちの街と生活に積極的に取り入れていきたい、と願っております。

そのためには、個々の自治体も可能な限りでの努力を惜しまぬものでございますが、さらに、「財団法人リバーフロント整備センター」の活動に期待するところ、誠に大と申さなければなりません。種々ご苦勞がおりかと思いますが、ぜひ重要な使命を全うされますよう、念願いたす次第でございます。

また、ご列席の皆様にも当センターに対し、末長くご支援、ご協力を賜りますよう、設立発起人代表を務めました私からも、重ねてお願い申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。有難うございました。

東京都知事 鈴木俊一

(さる10月8日の設立披露パーティの際、いただいた祝辞を掲載させていただきました。)